

ファイヤーレターデント防燃水

建築 不燃効果に驚き

難燃性とシロアリ忌避効果がある製品「ファイヤーレターデント防燃水」業者や設計関係者ら多数



防燃効果を確認する見学者
＝名瀬市の実験会場で

が見学に訪れ熱心に実験の様子を興味深く見守った。

公開実験を行ったのは、喜入町の建設資材会社・(株)クリスタル鹿児島(宮崎美弘代表取締役)で、奄美での実験は初となる。

「コストが高いことが一番のネックだが、今後の需要拡大で十分に克服できる」と奄美での普及に意欲を示した。また宮崎

松下孝 環境共生住宅認定審査

耐久性、断熱性に優れる

(株)松下建設(松下孝行社長、本社・鹿児島市)は15日、自然素材を多用した健康住宅「エコ・ハートQ21」の環境共生住宅の認定(更新)を、鹿児島市南皇徳寺台のモデルハウスで審査を受けた。同日は、審査委員の三井所清典教授(環境共生住宅認定委員長、芝浦工業大学・建築学科、東京都)と沖村恒雄理事・常任参事(建築環境・省エネルギー機構・IBEC、東京都)が現地を訪れ、松下社長と伊集院兼一同一級建築士の説明を聞きながら、基礎や壁、ドア、窓、天井・床下の改



入念にチェックが行われた認定審査
＝鹿児島市の現地で

め口、集中換気システムや基礎と床の両方を断熱している地下、換気扇、天井扇など、写真を取るなどして入念に審査を行った。三井所教授は「ヒノキとスギの香りの良さ、耐久性、断熱性にも優れている、これからは空気がきれいな健康住宅を建ててほしい」と総評した。なお、審査結果は、環境共生住宅認定委員会を開き、3月中には報告する。ほぼ問題なしの見通しだ。

不動産検索システム等説明会

市場への対応求める

アースアプレイザル(略称・アース社、取締役・一郎社長)はこのほど、協同組合地盤環境技術研究所センターの組合員を対象に、汚染可能性不動産検索・不動産減価計算システムや、昨年12月に開発したONDESシステムの説明会を、東京都千代田区の本社事務所で開いた。同社の担当者は、「パートナーである協組の力が要。ぜひ、個別に提携してほしい」と訴え、土壌汚染調査市場への迅速な対応を求めた。説明会は、ONDESシステムの開発・販売を始めたのを機に、同社のシステム利用や業務提携が、出資者である協組

建設管理センター 合格対策講座

80人が熱心に聴講

建設管理センターは16日、施工管理技士取得のための「合格対策講座(計9回)」「(厚生労働大臣指定教育訓練講座)を、県市町村自治会館で開き、約80人の参加者は合格に向け熱心に聴講していた。今回は、同センターの専任講師で全国50会場を飛び回っている奥田恵利矢氏がオリジナルテキストを活用し、工程・ネットワーク基本・安全管理のポイントを分かりやすく解説、また同資格の目的や現状、近い将来の展望などについて説明した。その中で、公共事業を発注する側も一定のレベルを維持するため、国家資

塩ビ管リサイクル公開試験

老朽既製品同様に再生

上町の同社敷地内にこのほど完成したリサイクル塩ビ管製造工場施設に、地元自治会代表ら約30人を招いて塩ビリサイクルの公開試験を実施。参加者はリサイクル塩ビ管の出来映えに、驚きの表情を見せていた。

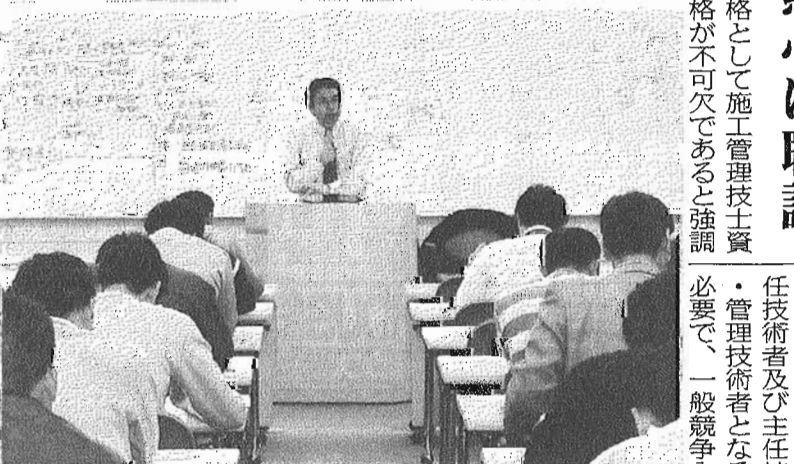


生産ラインを熱心に見入る参加者ら
＝吹上町の同社工場内で

同施設は、排出される塩化ビニール管・継ぎ手などを、老朽パイプから再生パイプへとリサイクルすることで、マテリアルリサイクルを構築し、塩ビ管処理問題の抜本的な解決を図ろうと考えた同社が、平成10年より県下でいち早く塩ビ管の分別リサイクルに取り組んでいた始良地区管工事業連絡協議会(上村和巳会

長)らの協力を受けながら、平成14年にリサイクル塩ビ管の製造工場施設が完成したため、地元関係者らを招いて施設が公開された。

午後5時、工場内には町役場職員をはじめ地元自治会の役員ら約30人が訪れた。参加者らは、粉砕された塩ビ管が各処理工程を経て、新たな再生塩ビ管として生まれ変わる姿を食卓上に見物していた。



ポイントを分かりやすく説明する講師の奥田氏
＝鹿児島市の県市町村自治会館で

同センターでは、今回参加できなかった受講希望者に対し4月8日からスタートするコースを設け、受講者の受け付けを随時行っている。また、受講費用について、受講料の80%を国が負担する「教育訓練給付制度」の利用を促している。支給対象は、雇用(失業)保険の被保険者期間が通算5年以上の者。問い合わせ先は、同センター(フリーダイヤル0120・14・5353、全国共通受講案内)。